【沿革】

作成：2021 年 4 月

改定：2023 年 4 月

2010（平成 22）年 4 月	建築生産委員会 IT 推進部会の傘下に「BIM 専門部会」を設置した。設置当初の目的は「業界標準化を推進することで、施工段階での BIM 活用のメリットの増大を図る」ことだった。
2012（平成 24）年 5 月	**『専門工事会社における BIM 活用実態調査報告書 2011 年版』**を発行。建築業界で初めて実施した専門工事会社の BIM 実態調査の結果を報告した。
2014（平成 26）年 11 月	**『施工 BIM のスタイル　施工段階における元請と専門工事会社の連携手引 2014』**を発行。日本で初めて施工段階の BIM を「施工 BIM」と定義し、「BIM モデル合意」のように BIM モデルを活用する手法を提唱した。
2016（平成 28）年 7 月	**『施工 BIM のスタイル　事例集 2016』**を発行。冊子に掲載した事例を紹介する「施工 BIM 事例発表会 2016」を同年 10 月に開催した。
2017（平成 29）年 7 月	**「施工図の LOD と BIM 施工図への展開」**を公開。「施工図に最適な LOD」についての考え方を具体的な図版と共に分かり易く解説した。
2017（平成 29）年 11 月	**『施工 BIM のすすめ　成功につながる施工 BIM スタートアップガイド 2017』**を発行。これから BIM を始める企業などを対象とした施工 BIM の裾野を広げることを目的とした冊子である。
2018（平成 30）年 7 月	**『施工 BIM のスタイル　事例集 2018』**を発行。冊子に掲載した事例を紹介する「施工 BIM 事例発表会 2018」を同年 7 月に開催した。
2021（令和 3）年 3 月	**『施工 BIM のスタイル　施工段階における BIM のワークフローに関する手引き 2020』**を発行。多様化した施工 BIM を 7 種類に体系化し、その中での取組みを 15 のワークフローにして掲載した。

2021（令和 3）年 4 月	「BIM 部会」に組織改変した。2 つの専門部会と 4 つの WG を設置した。 建築生産委員会 IT 推進部会傘下から建築生産委員会直下の組織となった。
2021（令和 3）年 6 月	「第 1 回・日建連 BIM セミナー」をオンラインにて開催し、『施工 BIM のスタイル 2020』を解説した。
2021（令和 3）年 8 月	建築本部の直下に「建築 BIM 合同会議」を設置。日建連内において横断的に BIM の推進ができる体制が整った。幹事は BIM 部会が担う。参加委員は建築生産委員会から BIM 部会、施工部会、設備部会、そして建築設計委員会から設計企画部会である。
2022（令和 4）年 6 月	「第 2 回・日建連 BIM セミナー」をオンラインにて開催し、建築 BIM 合同会議の成果（**ロードマップ**と**ワークフロー**）と BIM 部会の活動成果（BIM モデル承認、BIM モデル活用、仮設ライブラリ）を紹介した。
2022（令和 4）年 12 月	**『施工 BIM の活用ガイド　～日常業務で使える BIM 手引き～』**を発行。建築現場において BIM をどのように活用するのかをテーマとし、12 の取組みをレシピとして紹介をした。
2023（令和 5）年 3 月	**『施工 BIM のスタイル 事例集 2022』**を発行。
2023（令和 5）年 6 月	「第 3 回・日建連 BIM セミナー」をオンラインにて開催予定。『施工 BIM のスタイル事例集 2022』を題材とした「施工 BIM 事例発表会」も同時開催とする予定。